

稲作管理特報

水稻の生育は平年よりやや早まっています。穂肥は幼穂の長さ(1~2mm)を必ず確認し、適期を逃さず施用しましょう。
また、幼穂形成期以降は出穂期まで「飽水管理」(足跡に水が残る程度の状態になったら入水する)を行い、根の活力を維持しましょう。

1 「てんたかく」の生育状況(6月18日時点)

年度	田植日	草丈 (cm)	茎数		葉令 (L)	葉色 (群落)	幼穂 形成期
			(本/株)	(本/m ²)			
R6年 (2か所平均)	5/4	43.8	24.8	549	10.4	4.5	(6/25) 予測値
昨年	4/29	41.7	24.9	512	10.3	4.4	6/25
平年	5/4	40.8	25.7	525	10.0	4.3	6/26

2 「てんたかく」の穂肥

【基肥一発体系】

・基肥に一発肥料(Jコート早生専用)を施用したほ場では、過剰な穂肥施用により倒伏や未熟粒の発生が助長されるので、原則として施用はしないでください。
(追肥する場合の目安)
葉色が4.0を下回る場合は、「追肥3号」を5~7kg/10aを施用してください。

【分施肥体系】(田植えが5/4頃の目安)

穂肥	時期	生育の目安		肥料名及び施用量
		幼穂長	葉色	
1回目	6月25日頃	1~2mm	4.0 (※)	「追肥3号」 10kg/10a
2回目	1回目の施用から10日後	—	—	「追肥3号」 12kg/10a



田んぼ1枚当たり、主茎で3本以上幼穂を確認しましょう

※穂肥施用する時は、ほ場ごとに幼穂長や稲の生育を確認しましょう。
※1回目の穂肥施用前に、葉色が4.0未満と淡い場合は、3日程度早めに施用してください。

3 今後の水管理について

【水管理のイメージ図】

登熟期間の稲体の活力維持に向けて、適切な水管理をしましょう。

